

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で共通認識を持ち実践につなげるため、年度初めの職員会議で理念の確認を行っている。	母体の理念を基に地域密着型サービスの意義や役割を踏まえ、事業所の状況変化も確認しながら、職員間で基本方針や具体的なケアの在り方、行動指針について必要時話し合いの場を持ち、日々のサービス向上に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として区費を支払い、地域で行われるサロンや地区の掃除・祭へ参加している。 また、施設で開催される納涼祭や収穫祭は地域の方々にも声を掛け参加いただき交流を図っている。	事業所は地域住民の一員として地区会に加入し、区の共同作業や行事にも参加する等、地区で必要とされる活動や役割を担っていく努力をしている。加えて近隣の方々とは気軽に挨拶も交わし合い、収穫祭への参加の声掛けもいただく等、和やかな交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロンでへ参加し、困りごとや支援の方法について質問があればお答えする機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や事故・苦情、ヒヤリハット等の報告をし、構成員の方から貴重なご意見等をいただき、サービスの向上に努めている。	2ヶ月毎に開催する会議では状況報告や情報交換のみにとどまらず、メンバーからの質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となっており、メンバーからいただいた意見は職員間で話し合いサービス向上に活かしている。また、会議録については利用者全家族への配布も行う考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加いただいている。事業実績やサービス、取り組み事項について説明し、助言をいただいたり、情報の共有を図っている。また、質問や確認事項等必要がある場合には、担当課に連絡し連携を図っている。	市担当者とは運営推進会議の中や認定更新時の折などに、利用者の暮らしぶり、ニーズの具体を伝えるなど連携を深めており、早急な質問や確認事項の必要時は電話での伺いも行う等、日頃から気軽に相談出来る関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の適正化のための指針を基に、事業所内会議や施設研修を通し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束をしないケア」について施設内研修で定期的に学んでいる他、更に理解を深めていくため職員会議の場でもその課題について話し合い、利用者にとって抑圧感のない自由な暮らしを支えている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設研修で「高齢者虐待防止法」について学ぶ機会を設け、事業所内でも虐待が見過ごされることがないように注意、防止に努めている。	施設内研修で勉強会を実施し、「高齢者虐待防止法」に関する理解の浸透や遵守に向けた取り組みを行っている。また、管理者は職員の様子を窺いながら声をかけ、疲労やストレスが蓄積しないようメンタルケアにも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ご利用者1名が成年後見制度を利用している。地域包支援センターの職員と関わりを通し、情報交換を行い、必要時には制度を活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者やご家族と直接契約を行い、内容についてご理解いただけるよう説明をしている。また、料金改定時には変更について説明を行い、同意書いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは定期的に意見や要望を聞けるよう個別に話を聞く場を設けている。また、ご家族とも面談の場を設け意見等を聞き、サービスに反映させている。	毎月の家族への利用者状況の報告の機会や、面会時にも忌憚のない意見を寄せてもらえる雰囲気づくりに努め要望を伺ったりしている。そこでの意見は会議の中で話し合い運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回管理者と職員とで面談を行っている。また毎月開催している会議の場では、職員から意見が聞けるよう工夫しながら行っている。	毎月の職員会議の中で意見や要望を聴く機会を設けている。職員が意見を言い易くするような工夫もなされ、年2回管理者と職員とで面談を行う機会の配慮もあり、そのことが職員の意欲の向上と質の確保に繋がっていると感じ取れた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を取り入れ年2回面談を通し、職場環境や業務改善、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設全体で年間研修計画を立て実施している。また、事業所内でも毎月研修を実施。外部研修への参加の機会を確保し、内部で復命研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の3法人で協定を結び、研修会や交流会など活動を通じてサービス向上の取り組みを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談を実施。また、入居前に利用していたサービス事業所から情報を収集し、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や思い、サービス利用にあたるご要望等をお聞きし、特に初期段階においては連絡をこまめに取りなどし、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の機能や特徴、取り組み事項等を伝え、ご本人やご家族のニーズに沿った必要な支援を話し合い、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切りや洗濯、掃除やシーツ交換等ご本人ができることの役割を担い、協力しながら共同生活が送れるよう支援している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは定期的に連絡を取り、受診の確認や必要物品の持参を依頼している。また、施設内外での行事にはご家族にも声を掛け一緒に時間を共有していただいたり、毎月担当職員よりご利用者の状況を伝える等して、共にご利用者を支える関係を築けるよう努めている。	毎月送付する手紙の中や、面会時に利用者日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。通院時の付添や施設内外での行事への参加等を通して協力的な家族も多く、共に本人を支えていく姿勢に努めている。また、今後もより良い関係を構築していけるための支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類や知人の訪問時はゆっくり落ち着いて過ごせるよう支援している。また、お祭りや買物等外出の機会を設け、馴染みの関係が途切れることがないように支援に努めている。	本人がこれまでの地域社会との関わりを継続していくために家族の面会時や、交流のあった方、前事業者からの情報の中からその関係の把握に努めると共に、日々の暮らしの中でも本人の何気ない話の中から得られる情報も大切にしながら、馴染みの人や場との継続的な交流が出来るよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者が共に助け合って暮らせるよう、役割を持つことや共同作業ができるよう工夫しながら支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、いつでもご連絡いただける旨をお伝えし、必要に応じて情報提供や相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、ご利用者の思いを把握するように努め、思いや意向の把握が困難なご利用者に対しては、毎月開催する会議の中で検討を行っている。	入居前に家族や前担当者より情報を得て、本人の思いや意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な場合は、日々の生活行動や月1回の検討会議等で話し合い、本人を主体とした今迄の暮らしが継続できるよう職員間で共有が図られている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの生活歴については、ご本人・ご家族から聞き取りを行い把握に努めている。	利用開始前に本人、家族、前担当者からも日々の暮らし方や生活環境、地域との交流状況について聞き取り、入居後も本人が馴染んできた趣味(調理・野菜作り・縫物)等を活かし、在宅からの継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や毎日のミーティング、毎月の会議で情報を共有し、ご利用者の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族と話の場を設け、ご意見をいただき、介護計画に反映している。また、担当より毎月の会議の場や利用者状況報告をもらい、介護計画作成に反映している。	毎月居室担当と計画作成者が中心となり会議を開催し、利用者の状況把握に努めている。本人、家族の意見や要望を聞く場を設け、遠方の方には電話連絡にて確認し、本人に応じた生活が継続できるよう現状に即した介護計画の作成に努めている。	介護計画は計画担当者が中心となり、家族の意見や要望を組み入れた見直しがされている。モニタリング時の参加者名の確認ができなかったのて確認出来る資料の添付に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護システムを導入し、個別のケアに関することや気づきの点など記録に残し、職員間で情報の共有を行い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者を支えるため、ご家族と連絡を取りながら、受診や買物・外出支援など柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアやハンドマッサージ、施設行事では地域の方に足を運んでもらえ、暮らしを楽しむことができるよう支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者のかかりつけ医への受診を継続していただいている。かかりつけ医とは、連絡・連携を図り適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族が望むかかりつけ医の受診継続が可能であり、また、通院時の家族の協力も良く利用者は安心して受診できている。受診の際には主治医と連絡を取り合う「連絡ノート」を用い、利用者の様子、経過、観察、連絡事項等、詳細な交換を行い情報の共有を図っている。歯科医による往診体制も整い、適切な医療を受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の配置は無いが、異変時には職場内の看護師に相談や助言をもらう環境にある。また、必要に応じてかかりつけの病院へ連絡し、適切な受診ができるよう指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、安心して治療し早期に退院できるよう相談員等と電話連絡やご本人への面会時に情報交換・共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、ご本人・ご家族と話し合いの場を設けている。事業所でできることの説明等を行い、方向性を導き出している。必要に応じて、関係機関との連絡・調整の支援を行っている。	契約時に重度化した場合や終末期の対応について、本人、家族に事業所ができる範囲の説明を行い同意を得ている。本人、家族の望む支援体制の下、関係機関との連携を図りながら、要望に沿った支援に努めている。隣接事業所の看護師から医療についての研修を受け、何時でも対応できるよう周知に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応での体制構築やフローチャートの整備を行っている。また、毎年普通救命講習会を開催し心肺蘇生の訓練を実施している。	隣接施設と合同訓練で急変や事故発生時に備え、マニュアルを基に基本的な知識や技術の取得に努めている。また、毎年消防署職員による心肺蘇生やAEDの訓練を受け、緊急時フロチャートを現場に設置し、夜間でも慌てることなく実践できる体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いのもと、年2回日中と夜間想定で避難訓練を実施している。	災害時マニュアルの整備やAEDの設置もあり、隣接施設と合同で昼、夜間想定訓練を実施しており避難場所や備蓄も整っている。しかし近隣住民の参加協力までには至っていないため、地域との協力体制については運営推進会議で提案し相談を進めている。	事業所では今年地域で実施される避難訓練に参加予定していたが、今般の新型コロナウイルス感染拡大予防のため、訓練自体が中止となり参加ができなかった。事業所の訓練についても、今後は運営推進会議の中で提案し、参加協力の可能な方法について相談を重ね、地域住民の協力が得られるよう、避難訓練に向けた体制構築に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設研修で、接遇やプライバシー保護の研修を行っている。また、職員同士による気づきの声掛けを行い、ご利用者の尊重とプライバシーの確保に努めている。	接遇やプライバシー保護の研修を行い、一人ひとりの人格を尊重し気持ちに沿ったケアに心がけており、誤った対応、言葉がけには気づきの声掛けを行っている。利用者の気持ちを大切に、笑顔と信頼で穏やかに過ごしてもらえるよう努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が思いや希望を表現できる関係作りに取り組んでいる。また、自己決定ができるよう複数の選択肢を提案するなど働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者1人1人の生活やペースを大切に、ご利用者の意思を尊重した暮らしができるよう、希望に沿った柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人・ご家族に確認しながら、事業所に来る理容師に定期的に散髪してもらうことができる。また、衣類については購入希望時には衣服店への買物支援や通信販売での購入ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員見守りの中野菜切りを行ったり、片付けでは茶碗拭きやお盆ふきなど、できることをご利用者と職員で一緒に行っている。	委託業者からの食材で調理しているため献立は決まっているが、利用者の希望を取り入れ季節の食材を使い季節感を盛り込んだ利用者好みの食事を提供されている。利用者個々の力を活かしながら職員と共に行う食事作りは、在宅生活の延長線上にあるように生き生きとして楽しいひと時となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者の食事摂取量・1日の水分摂取量の把握に努め、必要な支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや支援を行い口腔内の清潔保持に努めている。また、ご家族や歯科医院と連携し、ご本人に合わせた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況や様子を把握し、必要時にはチェック表を用いて排泄の声掛けや誘導を行い、排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンの把握と利用者の身体能力に応じた適切な介助やさりげない声掛け見守り、誘導に努めている。現在、おむつ使用者は居られないとのことである。全職員が共通した排泄ケアに向き合い、自立に向けた支援と機能低下予防の取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・運動不足による便秘への影響などを考え、個々に応じた予防策で取り組みを行っている。また、必要時には主治医へ相談し対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や状況に応じて、日をずらしたり回数を増やすなど柔軟な対応を行っている。	入浴は午後入浴となっている。体調や状態によっては日程をずらすこともある。機械浴なので安全に入浴できる環境に努め、ゆっくりとコミュニケーションをとりながら柔軟な対応を心がけている。季節によってはゆず湯など変わり湯を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせ、自由に休息をとっていただいている。また、安心して気持ちよく眠れるよう1日の間で適度に体を動かす機会を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬カードを用いて、目的や副作用・用法や用量について確認をしながら、服薬の支援を症状の変化に気づけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当が主となりご本人の役割や楽しみごとへの支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿い、施設外への支援に努めている。また、年に数回普段は行けない外食等へ出掛けられるよう支援している。	外出支援として、地域の行事参加、お祭りなど車椅子の方も一緒に出掛けている。外食、四季折々のお花見など、季節に応じて外出を楽しむ機会を設けている。家族同行での自宅外出や洋服買いなど楽しい時間を過ごすなど、家族と共に支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族と相談し、一人ひとりに合わせた金銭の管理方法を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事業所取り付けの電話にて、ご家族や親類に電話できるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには大きな窓があり、外の光が入るようになっている。また、窓からは洗濯物や緑が見えるようになっている。また、ホールには季節を感じてもらえるよう花や作成した作品などを飾り、季節を感じてもらえるよう工夫をしている。	共有空間の窓は広く、開放感があり、山菜の香りや小高い山々の移り変わりなど、四季折々の眺めを楽しむことができる。ホール内には利用者が職員と共に作成した季節に応じた装飾品、共同作品が飾られ、利用者の笑顔が心を和ませ、明るくゆったりした心安らぐ場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者同士が話をしたり、過ごせるよう場所の移動は自由としている。ご自分で移動が困難な場合には、声掛けや支援を行い居場所づくりを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けの家具やベッド以外の物でも、ご本人が使いなれた家具や日用品を持ち込んでもらい、居心地のよい居室作りに配慮している。	本人、家族と相談し、普段から使い慣れた馴染みの物や思い出の品物を持参してもらい、思い思いの配置で危険なく安全な移動ができる工夫や、その人に合わせた環境づくりを心がけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには標記を行い、居室が分からない方には「個人情報の使用にかかる同意書」に沿い、名前を張り付けたり目印をつける等して対応している。		